

PHILIPS

Healthcare



第41回日本呼吸療法医学会学術集会 共催セミナー（ランチョン）4

日時 2019年8月3日(土) 12:00~13:00

会場 第5会場（大阪国際会議場10F 1003）

急性期疾患に対するNPPV療法を再考する —HFNCが興隆する中で—

座長 瀬尾 龍太郎 先生 神戸市立医療センター中央市民病院 救命救急センター

演者 緒方 嘉隆 先生 広島大学病院 集中治療部

参加方法：整理券制

共 催：第41回日本呼吸療法医学会学術集会／株式会社フィリップス・ジャパン

第41回日本呼吸療法医学会学術集会 共催セミナー（ランチョン）4

2019年8月3日（土）12:00～13:00 会場 第5会場（大阪国際会議場10F 1003）

急性期疾患に対するNPPV療法を再考する –HFNCが興隆する中で–

緒方 嘉隆 先生 広島大学病院 集中治療部

急性期疾患にNPPVが適用されるようになってから長い時間が経過している。現在では現場で様々な疾患に広く適用されている。疾患に対するエビデンスも数多く蓄積されてきた。しかし、近年、HFNCが導入され、とみに適用範囲が広がってきている。その臨床効果に関しても、目覚ましい速さでエビデンスの蓄積がなされてきている。従来はNPPVが適用されてきたケースでも、HFNCが適用されていることも多くなってきている。実際にどちらを使用するかに関して迷うケースも多々ある。（むしろHFNCが多用されているかもしれない）急性期疾患に対するNPPV療法は押され気味といってもよい。実際、急性期NPPV療法が、高いエビデンスレベルをもって推奨されている疾患は多くない。主には心原性肺水腫や慢性閉塞性肺疾患の急性増悪などが挙げられる。ではこのまま、急性期NPPV療法は衰退していくのか？

急性期NPPVは、その他推奨度は高くないが、現実的に、現場レベルでは実際に使用されている疾患も多数存在する。重症肺炎・気管支喘息重積発作・免疫抑制状態下の急性呼吸不全・septic shock などなどである。本セミナーでは、長期間にわたり蓄積されてきた急性期NPPVに関するエビデンスなどを整理し、通暁してみたい。そして、エビデンスレベルは高くないが実際適用されている疾患に関しても具体的な使用法を、私見を交えて、提示していきたい。HFNCが興隆し、広く適用されてきている中で、NPPV療法の可能性を再考してみたいと思います。（分の悪い結果になるかもしれないが…）

NPPVを用いた治療は、言うまでもないが、NPPVそのものが治療ということではなく、NPPVを適用するに至った疾患・病態を治療することが最も重要である。NPPVを適用するだけで治癒するわけではないことを、常に念頭に置くべきである。患者本人の協力が非常に重要であり、また、メディカルスタッフのNPPVに対する習熟と、熱意、そして疾患に対する理解が必須であることも言うまでもない。

その意味でも、本セミナーは、いわゆる専門家と言われるかたがたはもちろんですが、むしろ、初学者、メディカルスタッフのかたがたに積極的に参加いただき、一緒に考えていければと思います。多数のご参加を心よりお待ちしております。

